

(明治三十三年五月八日第三種郵便物認可)(毎月四日十四日廿四日三回發行)

# 縣報

第四十二號

明治卅四年六月四日

# 和歌山縣

## ○訓令

○和歌山縣訓令甲第三十四號

和歌山縣會計事務規程中別紙ノ通追加及改正ス  
明治三十四年六月一日  
(別紙ハ別ニ頒ツ)

和歌山縣知事

椿 養一郎

縣	市	縣	縣	縣	同	警	郡	廳
	役	立	立	立	分	察	役	中
金	所	測	病	學	署	署	所	一
庫	所	候	院	校	署	署	所	般
								監
								獄
								署
								ヲ
								除
								ク

縣報第四十二號

明治三十四年六月四日

第三種郵便物認可

縣報第四十二號

明治三十四年六月四日

第三種郵便物認可

二

○告 示

○和歌山縣告示第百八號

左記ノ者三重縣下へ轉籍ニ依リ本日和歌山縣產婆名簿ノ登録ヲ取消ス

和歌山縣知事

椿 養一郎

明治三十四年五月二十二日

東牟婁郡三輪崎村大字三輪崎五十三番地  
和歌山縣平民 保富 之 げ

○和歌山縣告示第百九號

兵庫縣美方郡村岡町ノ内相田村ニ於テ本月十一日牛痘頭氣腫疽ニ罹リ翌十四日斃死セシ旨  
通知アリタリ

明治三十四年五月廿三日

和歌山縣知事

椿 養一郎

○和歌山縣告示第百十號

本月十五日執行海草郡選出縣會議員補缺選舉ノ當選者住所氏名ハ左ノ如シ

和歌山縣知事

椿 養一郎

明治三十四年五月廿三日

海草郡宮村大字秋月

神前修三

○和歌山縣告示第百十一號

明治三十三年十二月和歌山縣告示第百十五號ハ本年五月三十一日限り廢止ス

和歌山縣知事

椿 養一郎

明治三十四年五月二十七日

和歌山縣告示第百十一號參照

明治三十三年十二月告示第百十五號ベスト豫防ノ爲メ船舶檢疫施行ノ件

○和歌山縣告示第百十二號

本年六月二十九日ヨリ本廳ニ於テ左記保安林解除申請ニ係ル和歌山地方森林會ヲ開ク

明治三十四年五月廿八日

和歌山縣知事

椿 藁一郎

郡名	村名	大字名	字名	地番	全	面	積	解面除積	所	有	者
西牟婁	日置	大古	二笠山	七五八	二反三畝二十四步	全	上	全	西牟婁郡日置村	春日	神社
全	全	日置	宮前	四三七	一反九畝二十一步	全	上	全	出月	神社	
					實測五反三畝二步						
					實測三反三畝二十一步						

○和歌山縣告示第百十三號

第二化糞第一化ニ關スル糞種検査所ハ特ニ左ノ各地ニ置キ必要ノ時々之ヲ開ク

明治三十四年五月廿九日

和歌山縣知事

椿 藁一郎

記

- 和歌山市  
 那賀郡  
 有田郡  
 全  
 日高郡  
 長田村  
 田殿村  
 岩倉村  
 船着村

東牟婁郡

下太田村

○和歌山縣告示第百十四號

左記ノ者明治三十四年度本縣種検査員ニ命セリ

明治三十四年五月廿九日

和歌山縣知事

椿 藁一郎

濱崎 優

○和歌山縣告示第百十五號

左記ノ者本日頭書ノ番號ヲ以テ和歌山縣産婆名簿ニ登録ス

明治三十四年五月廿九日

和歌山縣知事

梅 藁一郎

伊都郡名倉村大字名倉四百八十六番地和歌山縣平民

第三八四號

福西ヨネ 明治二年十一月生

伊都郡笠田村大字東七百三十六番地和歌山縣平民

第三八五號

東畑ひめ 慶應元年五月生

海草郡岡崎村大字寺内五百七十七番地和歌山縣平民

第三八六號

前田まゐと 明治十年二月生

海草郡巽村大字重根千四百三十四番地和歌山縣平民

第三八七號

藤田ミヤジ 明治十三年十一月生

海草郡野崎村大字北嶋百五十五番地寄留和歌山縣平民

第三八八號

川崎イワエ 慶應元年四月生

第三八九號

海草郡西和佐村大字栗栖百六番地寄留京都府平民

栗本うめ 慶應二年八月生

海草郡山口村大字平岡八番地和歌山縣平民

山田しづ 明治三年三月生

第三九〇號

海草郡川永村大字永穂百三十番地和歌山縣平民

三輪とく 明治九年十月生

第三九一號

海草郡松江村千十三番地和歌山縣平民

松本フク 明治七年十二月生

第三九二號

海草郡椒村大字椒里三百九十六番地和歌山縣平民

山口イッエ 明治十四年四月生

第三九三號

海草郡宮村大字秋月四百三十九番地和歌山縣平民

松尾小りう 明治十三年二月生

第三九四號

海草郡内海村大字藤白拾番地和歌山縣平民

雜賀ミヨノ 明治十三年三月生

第三九五號

海草郡加太町大字加太千四百八十九番地和歌山縣平民

武内喜久江 安政五年八月生

第三九六號

海草郡松江村四百六十九番地和歌山縣士族

鳥居ヒロ 明治八年一月生

第三九七號

第三九八號

海草郡和佐村大字關戸百五十四番地和歌山縣平民

石橋か何る 明治十四年三月生

海草郡仁義村大字曾根田三十一番地和歌山縣士族

内 芝 蔦 明治十四年一月生

第三九九號

海草郡直川村二千四百四十八番地和歌山縣平民

細川 ミヨ 明治十四年三月生

第四〇〇號

海草郡龜川村大字且來三百十二番地和歌山縣平民

山本 すみ 明治十一年三月生

第四〇一號

海草郡東山東村大字南側五百四十一番地和歌山縣平民

生駒 つる江 明治七年十一月生

第四〇二號

海草郡四箇鄉村大字有本七十八番地和歌山縣平民

中村 ハツエ 明治十四年四月生

第四〇三號

○和歌山縣告示第百十六號

兵庫縣下朝來郡與布土村ニ於テ本月廿一日午一頭氣腫疽ニ歸リ斃死セシ旨全縣ヨリ通知アリタリ

明治三十四年五月三十一日

和歌山縣知事 椿 菜一 郎

○和歌山縣告示第百十七號

獸疫豫防ノ爲メ左記ノ應令及ヒ告示發布ノ旨通知アリタリ

和歌山縣知事

椿 紫一郎

明治三十四年六月一日  
警視廳令第三十八號

明治三十四年三月視廳令第十二號第一項第二項第三項ヲ削除ス

明治三十四年五月十六日

警視總監

安樂兼通

警視廳令第三十八號參照

警視廳令第十二號抄錄(三十四年三月八日)

牛疫豫防ノ爲メ左ノ地域内ハ牛羊豕ノ出入往來并病毒傳播ノ疑アル物品ノ運搬ヲ停止ス  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年三月八日

警視總監

安樂兼道

- 一下各區花園町十一番地ヨリ西北ニ本郷區根津宮永町通駒込千駄木坂下町ヨリ團子坂ニ出テ右ニ枇杷橋ヲ渡リ下谷區谷中三崎町通谷中町堀查派出所右ニ三崎南町上野櫻木町護國院ニ沿ヒ花園町巡查派出所左ニ花園町十一番地先ニ至ル地域内
- 一本郷區根津宮永町通ヲ經テ根津須賀町四十八番地地先ヨリ全町根津神社前通向ケ岡粥生町一番地地先ヲ曲リ駒込千駄木町五十八番地地先ヲ經テ全町二番地地先ニ至リ東ヘ千駄木町通俗稱團子坂ヲ經テ全町四番地地先ニ至ル
- 一本所區藤代町二番地地先ヨリ北ヘ外手町十三番地地先ニ至リ夫ヨリ東ヘ北割下水南側ニ沿ヒ若宮町二百十一番地地先ニ至リ夫ヨリ南ヘ三ツ目通右ヘ下リ綠町五丁目三十七番地地先ニ至リ夫ヨリ西ヘ相生町通り横綱町一丁目五番地地先ニ至ル地域内



警視廳令第三十九號

明治三十四年三月警視廳令第十二號第十四項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年五月十八日

警視總監

安樂兼道

一本郷區根津宮永町通ヲ根津八重垣町四十九番地先ニ至ル左へ根津清水町一番地ヨリ根津須賀町十八番地先ヲ左へ全町十番地先ニ至リ夫ヨリ右へ全町根津神社前通向ケ岡弥生町一番地先ヲ右へ駒込千駄木町二番地先ニ至リ東へ千駄木町通リ俗稱園子坂ヲ經テ批把橋ヲ渡リ下谷區谷中三崎町五十三番地先ヲ右へ全區眞島町一番地先ヨリ坂町ヲ右へ本郷根津宮永町通ニ至ル地域内

警視廳告示第九十九號

本郷區根津八重垣町四十番地牛乳搾取業齋木輔一郎方ニ於テ牛三頭牛殺ニ罹リタルヲ以テ撲殺セリ

明治三十四年五月十八日

警視總監

安樂兼道

○和歌山縣告示第百十八號

山梨縣ヨリ左記ノ縣令發布ノ旨通知アリタリ

明治三十四年六月一日

和歌山縣知事

椿 泰一郎

縣令第二十八號

明治三十一年內務省令第六號施行細則左之通り相定ム

但明治三十一年縣令第三十號ハ廢止ス

明治三十四年五月十八日

山梨縣知事

加藤平四郎

第一條 觀覽料徵收願書ニハ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

一 觀覽物

一 觀覽料

一 觀覽ノ場所

一 觀覽ノ期間

一 觀覽料徵收ノ事由

一 觀覽物及觀覽場取締方法

第二條 前條ニ掲クル事項ヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ詳具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 寄附金又ハ負債募集願書ニハ省令第五條ニ掲クル事項ノ外左ノ事項ヲ詳具スヘシ

一 募集金保管方法

一 募集金支出豫算

一 工事ニ係ルモノハ其設計書及圖面

第四條 當廳ヲ經由セスシテ内務大臣ノ許可受ケ寄附金又ハ負債募集ニ從事セントストキ

ハ願書及指令書ノ寫ヲ添ヘ當廳及ヒ募集地所轄警察署ヘ届出ヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタルモノ他人ヲシテ募集ニ從事セシムル場合ニ在テハ其認可願書ニ募

集願書及指令書ノ寫ヲ添付スヘシ

第五條 當廳ヲ經由セスシテ省令第六條ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ其願書及指令書ノ寫ヲ添ヘ直チニ當廳及募集地所轄警察署ヘ届出ヘシ

第六條 觀覽料徴收又ハ寄附金若クハ負債募集願並募集人認可願書ハ總テ神社寺院佛堂並法人事務所々在地ノ町村役場及郡市役所ヲ經由スヘシ

第七條 寄附金又ハ負債募集ニ從事スルモノハ其願書寫及指令書ヲ携帶スヘシ

數ヶ所ニ於テ同時ニ募集スルトキハ前項ノ指令書ハ其謄本ヲ以テ代用スルコトヲ得但此場合ハ正本ニ依リ謄寫ノ旨ヲ記シ其許可又ハ認可ヲ受ケタル者署名捺印スベシ

補則

第八條 第四條及第五條ニ依リ届出ヲ要スルモノニシテ本細則施行前ニ於テ募集ニ着手シ又ハ省令第六條ノ許可ヲ受ケタルモノハ此際速ニ届出スヘシ

○和歌山縣告諭第三號

ベスト病は猛惡なる傳染病にして之か豫防の事は獨り當該吏員に一任せず各各自に於ける警戒の怠る可からざる所以は從來屢々告諭したる所にして不幸にも一時發生蔓延の兆候を呈せんとしたる縣下湯淺町に於ける該病も幸に今や殆ど撲滅の効を告げんとする折柄頃日東京帝國大學に於て鼯鼠及病鼠を檢鏡したるに數匹の鼠にベスト菌を發見したるの報に接せりベスト病の猛毒なる患者の一人もなき今日に於ても病毒は既に東京市に

侵入せるを聞きては更に一層の警戒を加へざるべからず東京市は縣地を距る百數十里の外に在りど雖も其位置我國の中樞に在り本縣とは海陸の交通漸繁にして旅客貨物の來往亦從て多く何時如何なる子係より病毒の侵入する哉も保すべからず湯淺町に於けるセスト病漸く制遏の効を奏せんとするに當り萬一他より病毒の侵襲を蒙る如きとわれば其慘害の及ぶ處農と多く商となく工業となく其愛なへき生命財産を損し容易に恢復し得へからざる慘狀を呈する哉も不被計に付之か豫防上に就ては宜しく客年十一月本縣告諭第三號の旨を体し各自相警戒して病毒侵入の餘地なからしむる様勉むべし

明治三十四年五月三十日

和歌山縣知事

椿

藁一郎

明治三十三年第三種郵便物認可

(毎月四日十四日廿四日三回發行)

五月八日

日次は九番九番九番

(明治三十三年) 五月八日 第三種郵便物認可

明治三十四年六月四日縣報第四十二號附錄

和歌山訓令甲第三十四號別紙

和歌山縣會計事務規程中改正及追加

第一章 第一條ヲ第一條ノ三トシ左ノ通り追加ス

第一條 歳入ノ所屬年度ハ左ノ區別ニ據ル

- 一 納期ノ一定シタル收入ハ各其ノ指定ノ年度
  - 二 隨時ノ收入ハ徵稅令書徵收告知書又ハ納入告知書ヲ發スル日ノ屬スル年度
  - 三 國債證書其ノ他有價證券又ハ預ケ金ノ利子ハ之ヲ受領スル日ノ屬スル年度
  - 四 國庫下渡金國庫補助金ハ其ノ下渡又ハ補助ヲ受クヘキ事業ノ屬スル年度
- 第一條ノ二 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區別ニ據ル

一 縣債ノ元利及年金恩給ノ類ハ其ノ仕拂期日ノ屬スル年度

二 縣稅其ノ他收入ノ過誤納下戻ハ之ヲ徵收シタル年度

三 救助ニ屬スルモノハ其ノ災害ニ罹リタル日ノ屬スル年度

四 傳染病豫防法ニ依リ縣ニ於テ支出スヘキモノ及行旅人ニ關スルモノハ縣ノ支出ト定

マリタル日ノ屬スル年度

五 俸給其ノ他ノ給與通信運搬費ノ類ハ其ノ事實ノ生シタル年度

六 土木及建築工事ノ受負其ノ他總テノ物品購入ハ其ノ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

但土木又ハ建築工事ヲ翌年度ニ繰越シタルトキ及年度開始前ニ於テ特ニ契約ヲ爲シ

置クノ必要アリテ其ノ手續ヲ經タルモノハ此限ニアラス

第二章ヲ左ノ通改正シ第三章第七條ヲ第七條ノ二トス

第二條 歳入豫算中縣稅ニ係ルモノハ毎年度都市長ニ於テ前年度四月一日ノ現在ヲ調査シ

書式第一號ニ依リ前年度七月十五日迄ニ之ヲ知事ニ提出スヘシ但前年度四月一日ノ現在ニ據ルヘカラサルモノハ前々年度一年度間ノ實數ヲ調査スヘシ

縣稅以外ノ收入ハ財産收入雜收入寄付金國庫下渡金國庫補助金等ノ豫算ハ其ノ主管ニ隨ヒ分任所管長ニ於テ書式第二號ニ依リ調査シ前年度六月三十日迄ニ所管長ニ送付シ所管長ハ其ノ部ニ屬スルモノヲ調査シ前年度七月十五日迄ニ知事ニ提出スヘシ  
歳入豫算ノ前年度ニ比シ増減アルモノハ各其ノ理由ヲ説明スヘシ

第三條 歳出豫算ハ各其ノ主管ニ隨ヒ分任所管長ニ於テ書式第三號ニ依リ調査シ前年度六月三十日迄ニ所管長ニ送付シ所管長ハ其ノ部ニ屬スルモノヲ調理シ前年度七月十五日迄ニ知事ニ提出スヘシ

第四條 經費ヲ算出スルニハ左ノ各項ニ依ルヘシ

給與ニ屬スルモノハ一人當リノ給額物件ニ屬スルモノハ一箇當リノ費用ヨリ積算スヘシ  
一人當リノ給額ヲ出算スルニハ規定ノ給額アルモノハ其ノ規程ノ額ヲ基トシ規定ノ給額ナキモノハ各其ノ據ル所ヲ明示スヘシ

一箇當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ價格アルモノハ其ノ價格ヲ基トシ規定ノ價格ナキモノハ時價ニ據リ其據ル所ヲ明示スヘシ

給與ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ定員アルモノハ定員ヲ限度トシ定員ナキモノハ前年度四月一日ノ現員ヲ標準トスヘシ但事務ノ繁閑ニ隨ヒ臨時雇入又ハ解備ヲナス人員ハ前々

年度以前三ヶ年度ノ平均人員ヲ標準トスヘシ

物件ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ規定ノ箇數アルモノハ規定ノ箇數ヲ限度トシ規定ノ箇數ナキモノハ前々年度以前三ヶ年度間ニ實際使用ニ供シタル平均箇數ヲ標準トスヘシ

常例ノ旅行ニ屬スル旅費ハ各用務毎ニ人員、旅費、等級、里程、及日數宿泊數ヲ豫算スヘシ

前各項ニ據ルヘカラサル經費ハ最モ適實ノ方法ニ據リ豫算シ其ノ計算ノ基ク所ヲ明示スヘシ

第五條 内務部第一課長ハ前各條ニヨリ提出シタル豫算調書ヲ檢案シ歳入出ヲ對照調理シ歳入歳出總概定豫算書ヲ調製シ前年度七月三十一日迄ニ内務部長及參事官ノ査閲ヲ經知事ノ決定ヲ請クヘシ

前項ニ依リ歳入歳出惣豫算ノ決定ヲ請ケタルトキハ更ニ成規ノ書式ニ基キ歳入歳出豫算按テ調製シ府縣制第七十九條ニ依リ縣參事會ノ審査ニ付スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 歳入歳出豫算議決確定シタルトキハ各部及各支部毎ニ區分シ所要ノ費額ヲ定メ命令スヘキモノトス

第七條ノ一歳計豫算ノ外縣會又ハ縣參事會ノ議決ヲ要スルモノハ本章ノ例ニ準據スヘシ

一第十四條及第十七條中所管長ノ下「又ハ」ノ二字ヲ削リ分任所管長ノ下「又ハ市長」ノ四字ヲ加フ

一第十八條ヲ第十八條ノ二トシ左ノ通り追加ス



第十八條 仕拂命令又ハ通知書ノ現金交換期限ハ命令又ハ通知書發行ノ日ヨリ三十日以内

トス

仕拂命令ヲ發行スルハ年度経過後二ヶ月(五月三十一日)限リトス

一第三十三條第三項但書第三十五條及第八章ノ第七十條ヲ削除ス

一第三十七條ヲ左ノ通り改ム

縣金庫保管金ノ年度繰越ヲ要スルトキ又ハ特別會計ノ資金ヲ縣廳支金庫へ轉送ヲ要スルトキハ其ノ繰越又ハ轉送命令ヲ發スヘシ

一第三十八條乃至第四十二條中「分署長」ヲ「分署出納吏」ニ改ム

一第四十四條第五號中「警察部ハ課長警察署ハ署長」ヲ「警察部又ハ警察署出納吏」ニ改ム

一第五十六條定額戻入ノ下「又ハ雜收入ニ編入」ノ八字ヲ削ル

一第六十八條第一項中「五月」トアルヲ「六月」ニ第二項中「四月」トアルヲ「五月」ニ「五月」トアルヲ「六月」ニ改ム

トアルヲ「六月」ニ改ム

一第六十九條中「五月」トアルヲ「六月」ニ改ム

一第百十五條中罹災救助基金ノ下出納吏保管金ノ六字ヲ加フ

一付屬書式第一號第二號第三號別紙ノ通改ム

一付屬書式第四十一號ノ二別紙ノ通改ム

明治何年四月一日現在商業

△印ハ朱書

稅區等級	市町村名	人員	全上ノ內税金免除人員
一 等	何市(町村)	何 △外何人新規 何百人新規 △外何人新規	全額免除 何人 全額免除 何人 全額免除 何人
	何 町	何 △外何人新規	
	何 村	何 △外何人新規	
	、	、	
	、	、	
牛馬賣買	、	、	
△計	何 村	何 △外何人新規 △何百人 △何百人 △何百人	△全額免除 何人
二 等	何 村	何 △外何人新規	
	、	、	
	、	、	
牛馬賣買	、	、	
△計	、	、	

以下各等倣之

郡計

何百何十人

全額免除

何人

何人

(備者)

一工業モ此表式ニ準ス

一外何人新規トアルハ四月一日其ノ現在員調定シタル後七月一日迄ノ間新規開業者ノ

鑑札ヲ下付シタルモノヲ云フ以下各表之レニ倣フ

一全額又ハ半額免除トアルハ賦課規則ニ依リ四月一日以後七月一日迄ノ間ニ於テ税金

免除シタルモノヲ云フ

明治何年四月一日現在料理屋

等級	町村名	人員	全上ノ内税金免除人員
----	-----	----	------------

一	何町	何十人	
---	----	-----	--

	何村	何十人	
--	----	-----	--

計		何十何人	
---	--	------	--

二等以下各等毎ニ做之

郡(市)計	何百人	
-------	-----	--

飲食店、湯屋、理髮人、モ

此表式ニ做フ但理髮人ハ男女ヲ區別スヘシ

明治何年四月一日現在遊藝師匠

郡 (市) 計	等級		町	村	名	藝	目	人	員	全上ノ内税金免除人員
	一	等								
二等以下倣之	何		何			何	何	何	十	人
				村		何	々	々	十	人
						何	々	々	十	人
						何	々	々	十	人
						何	々	々	十	人
計			何			何	何	何	十	何人

遊藝稼人モ此表式ニ準ス

明治何年四月一日現在相撲

等級	本籍地名	居住地名	人員
一等	何府(縣)何郡何町(村)	何	何
二等	本縣何郡何村	全	何
計			何
二等以下倣之			
郡(市)計			何
			十
			人

明治何年四月一日現在俳優

本籍地名	居住地名	人員
何府(縣)何郡何村	何町(村)	何人
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
計	—	何十人

自明治何年四月一日至何年三月三十一日 一ケ年間藝妓

等級	營業地名	延人員	月數
一 等	何市(町)(村)	何 十 人	何 十 月
	何 村	何 人	何 月
計		何 十 何 人	何 十 何 月
二等以下各等毎ニ倣之			
郡 (市) 計		何 百 人	何 百 月

(備考)

自明治何年四月一日至何年三月三十一日トアルハ前々年度一ケ年間ノ實數ヲ掲クルモ  
ノトス以下各表皆之レニ同シ  
精間モ此例ニ依ル



書式第一號ノ七

明治卅四年六月四日縣報第四十二號附錄 第三種郵便物認可 十二

自明治何年四月一日  
至明治何年三月三十一日 一ヶ年間市場

官 許 地 名 業 目 開 業 日 數 管 理 者 氏 名

何町(村)大字何々番地

何々

何

某

何々

何

某

自明治何年四月一日 一ヶ年間演劇其他興行  
至同何年三月三十一日

等	級	地	名	業	目	日	數
一	等	何町(村)	大字何々何座	演	劇	何	十
		、	、	興	行	何	十
		、	、			何	十
		、	、				
計							
二等以下各等毎ニ傲之							
郡	(市)	計			何		百
遊覽所モ之ニ傲フ							

自明治何年四月一日 一ヶ年間遊技場  
至同何年三月三十一日

等	級	地	名	業	目	月	數
一	等	何町(村)大字何々番地	何	々	何	ヶ	月
		何村大字何々番地	何	々	何	ヶ	月
	計				何	十	ヶ
	計				何	十	ヶ
	郡(市)計				何	十	ヶ

二等以下各等毎ニ倣之

明治何年四月一日現在日本形船

種

別

員

數

石

數

積量五拾石以上

何

艘

何

万

何

千

石

書式第一號ノ十一

明治卅四年六月四日縣報第四十二號附錄 第三種郵便物認可 十六

明治何年四月一日現在西洋形船

種	別	員	數	噸	數
蒸	汽	船	何	何	百
風	帆	船	何	何	百
パ	テ	ラ	船		噸

明治何年四月一日現在五拾石未滿海川小船

間	別	員	數
長壹間未滿	何	艘	
以下間別毎ニ倣之			
計	百何何十艘		

明治何年四月一日現在車

種別	員數
何疋立馬車	何輛
荷積馬車	何輛
何人乘人力車	何十輛
牛車	何輛
何々荷積車	何百輛
計	何百何十何輛

明治何年四月一日現在自轉車

種別	員數
自用	何輛
賃貸	何輛
計	何十輛

乘馬モ此表式ニ倣フ





自明治何年四月一日  
至同何年三月三十一日  
一々年間屠畜

屠殺地名	種	別	頭數
何村大字何々	牛		何十頭
、		々	、
、			、
、			、
、			、
計			何十頭

書式第一號ノ十七 明治卅四年六月四日縣報第百四十二號附錄第三種郵便物認可 二十二

自明治何年四月一日一々年間漁業  
至同年三月三十一日

管外來漁

來漁地名

本籍地名

人

員

何村大字何々

何府(縣)何國何郡何村

何

人

、  
、  
、  
、

、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、

、

、

計

何

十

人

海面遊漁

種別

本籍地名

人

員

船漁

何町

何

人

計

何村

何

十

人

磯釣

何村

何

人

、

、

、

、



明治卅四年六月四日縣報第四十二號附錄 第三種郵便物認可 二十四

、	何	計	何	何	川	鱸 漁	計	何	何	計	何	何	
、	川		川	川	別		川	川	川	川	川	川	川
、	鈎		、	何	漁			右	鴉		、	何	
、	獲		、	々	法			全	狩		、	々	
、	何	何	、	何	人		何	何	何	何	、	何	
		十					千			百	、	十	
、	人	人	、	人	員		人	人	人	人	、	人	

計	河川取貝	種別	牡蠣	計
		村名	何村大字何々字何々	
何 十 人		坪數	何 万 坪	

明治卅四年六月四日縣報第四十二號附錄 第三種郵便物認可 二十五

自明治何年四月一日 一ヶ年間採藻  
至同何年三月三十一日

河川採藻		種別	坪數及人員
海	苔	何村大字何々字何	何 万 坪
計			何 万 何 百 坪
青	海 苔	何村大字何々字何	何 人
計			何 十 人

明治卅四年四月一日現在死牛馬取扱人

町村名	人員
何村	何人
何村	何人
計	何十人



明治何年四月一日現在私法人建物

市町村名	法人ノ名稱	土地建物坪數	建物賃貨價格
何町	何々會社		
何村	何々銀行		
何村	何々工場		
合計			

自明治何年四月一日  
至明治何年三月三十一日  
一ヶ年間狩獵人員

種別	甲種			乙種			合計
	一 等	二 等	三 等	一 等	二 等	三 等	
級							
人							
員							
免許							
稅							
總額							

書式第一號ノ二十二 明治卅四年六月四日縣報第四十二號附錄第三種郵便物認可

三十

明治何年四月一日現在戸數割

市町村名	賦課徵收ノ戸數		縣稅賦課規則ニ依リ免除ノ戸數		何々計
	何	何	羅災救助戸數	恤救ヲ受クル戸數	
何町	何	何	何	何	何々計
何村	何	何	何	何	何々計
合計	何	何	何	何	何々計

明治何年四月一日現在地租

市町村名	地租額
何市(町村)	金何程
何町	、
何村	、
郡計	、

自明治何年四月一日  
至明治何年三月三十一日 一ヶ年間國稅營業稅人員

市町村名	人員	營業稅額
何市(町村)	何十人	何金何程
何町	何人	何金何程
何村	何人	何金何程
以下倣之		
郡計	何十何人	何金何程

(備考)  
營業稅額ハ營業稅法ニ依ル營業稅ヲ云フ

書式第一號ノ二十五

自明治何年四月一日  
至明治何年三月三十一日  
一ヶ年間所得税人員

市町村名	種別	人員	所得額
	一 種		
	二種ノ無記名債券 所得ヲ除ク		
	三 種		
計			
計			
合計			

明治何年度收入豫算書

(科目ハ款項目節ニ分テ)

歲入經常部		附記	
科	目	本年度豫算	前年度豫算
財產收入	入	實收額	前々年度
不動產收入			
地所貸渡料			
何々地賃渡料			
何郡市何町村大字何々番地反別何程何年何月ヨリ何年何月マテ何某へ貸渡料一ケ年分			
家屋渡賃料			
何々家屋賃渡料			
前ニ倣フ			
竹木賣拂代			
何地ニ生立ノ何樹又ハ竹何程此何程ニ付何錢ノ見込			
生產物賣拂代			
何々賣拂代			
何地ノ生產何々何程此何程ニ付何錢ノ見込			





徴罰及沒收金		罰金		懲罰金		沒收金		使用料	
			罰金		懲罰金		沒收金		使用料
			巡査懲罰金		看守罰金		何々沒收金		堤塘使用料
			同上		同上		同上		何川堤塘使用料
			三ヶ年平均ノ實収ニ因ル		同上		三ヶ年平均ノ實収入ニ依ル		何郡市町村何某使用何程明治何年何月ヨリ何年何月マテ許可ノ分一ヶ年料金

授業料						手數料			
		衛生試驗 手數料	免許狀書 換手數料	小學校教 員免許狀 書換手數 料	檢定手數 料	小學校教 員檢定手 數料		何々使用 料	何並木敷 使用料
	何々試驗 手數料						何々使用 料		
	何回分一回何程		前ニ倣フ		何人分一人何程		前ニ倣フ		前ニ倣フ

明治卅四年六月四日縣報第四十二號附錄 第三種郵便物認可 三十七









	何家 拂代					前ニ 做フ
歳入臨時部合計						
歳入總計						

年月日

(所管長)(又ハ分任所管長) 官氏名印

知事宛

(備考)

- 一各區ニ於テハ各其主管ニ属スル種類ノミヲ記スヘシ
- 一桑葉其他耕作物賣拂代ハ孰レノ廳衙ニ属スルモ總テ財産收入中ノ生産物賣拂代ノ目ニ記シ其種類ヲ節ニ掲クヘシ
- 一凡テノ收入金額附記ニハ其算出ノ基ク所ヲ記スヘシ
- 一前年度豫算若ハ前々年度收額ニ比シ大差アルモノハ其事由ヲ附記ニ掲クヘシ

明治何年度縣稅歲出豫算調書

經常部

第何款 何々々費

第一項 俸給及諸給

〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃

目	本年度豫算調高		前年度豫算額		比較	
	増	減	増	減	増	減
第一目何々給料						

前年度豫算ニ比シ(増加)減少スルハ何々(其増減ノ事由ヲ明了ニ)ニ由ル  
 (詳記スヘシ以下同シ)

参照

職名給別	本年度豫算		同年四月一日現在		前年度豫算		備考
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	
計							(四月一日ノ現在ト増減スルノ事由等ヲ茲ニ記スヘシ)

(備考)

一款項目ノ區別ハ費目ニ依リ同シカラス例ヘハ警察費、郡吏員給料旅費及廳中諸費、ノ如キハ俸給及諸給ハ項ニシテ巡查月給、書記俸給ハ目ナレモ教育費ノ如キハ師範學校







第二項 廳 費

第一目備品費

前年度豫算ニ比シ(増加)減少スルハ何々ニ由ル

參照

器具

品	種	數	量	單	價	豫	算	金	額	前	年	度	豫	算	金	額	前	三	ヶ	年	平	均	實	費	全	數	量	四	月	一	日	現	在	數	量	
計																																				

(品種ハ器具、器械、臥具、雜品ノ四種ニ大別シ椅子、机、筆筒等其種類毎ニ列記スヘシ)

第二目文具費

第三目消耗品費

第四目 圖書及印刷費

此三目ノ記載方ハ備品費ノ例ニ倣フヘシ但種類ノ大別ハ書式第四十六號ノ二ノ例ニ依リ尙雜品ノ一種ヲ加フヘシ

第五目通信運搬費

前年度豫算ニ比シ(増加)減少スルハ何々ニ由ル

通信費

種別	數量	價	豫算金額	前年度豫算金額			平均
				前年度	何年度	何年度	
計							

運搬費

(記載方總テ前ニ倣フ)

一廳費ノ項ナキ費目例ヘハ學校費ニ在リテハ校費ノ目ヲ掲ケ目ノ處ヲ節トスヘシ  
一右ノ外各項目ノ記載方ハ相當ノ例ニ準據シ其算出ノ基ヲ所ヲ明ニシ之ヲ編製スヘシ

臨時部  
第何款 何々々 費

以下記載例前ニ倣フ

臨時部ニ記スヘキモノハ土木費中道路改修費、橋梁架換費、市町村土木補助費、各建築費、  
縣債費、博覽會費、共進會費其他臨時ニ屬スルモノヲ云フ

說明

本費豫算金何程ヲ以テ前年度豫算金何程ニ比シ何程ヲ(增加)減少スルハ何々ニ由ル其內譯  
左ノ如シ

俸給及諸給

云々

何々

云々

右邊達候也

年月日

知事宛

所管長(分任所管長)官氏名印

持區內巡回日誌

在勤所出發年月日	宿泊數	宿泊地宿所	用務
全歸着年月日	一	何町村大字何方	何々御用ニ付何地へ出張
明治何年何月何日	一	何町村大字何方	何々御用ニ付何地へ出張
全何月何日	一	何町村大字何方	何々御用ニ付何地へ出張
計	二	全	何々御用ニ付何地へ出張

右之通相違無之候也

年 月 日

何郡市警察署(分署)(何町村駐在所)詰

巡查 何 某 印

國語學四年六卷附錄目錄

一

附錄 其 一

附錄 其 二

附錄 其 三

附錄 其 四

五

附錄 其 五